

頭の柔らかいうちに、 もっと難しいことを学ぼう

大学で経営組織論を教えているのにこんなことを書くのも変ですが、二十歳前後の若者が経営組織論を学ぶ必要があるのだろうか、とたまに思うのです。もっと年齢と仕事の経験を重ねて、部下を持つ立場になって、経営組織論の必要性を痛感する、というのは共感できますから、社会人大学院においては、経営組織論は最重要科目の一つなんだろうと思います。

また、組織運営のやりかたは、大学の授業で学ばなくても、実践を通じて身につけていく、というのが普通なんだろうなと思います。ですから若くて頭の柔らかいうちは、もっと難しいことを、例えば経済学を学ぶ方が、よっぽど役に立つと私は思います。それに、経済学のような分野は、仕事の実践で体系的に身につけるのは簡単ではないと思うので、大学時代に学ぶべきではないかと余計に思うのです。

しかしながら、学生に聞くと、経営組織論は役に立つ、と言うのです。世辞を割り引いて考えるにしても、学生にとっても役立つらしいのです。その理由は、学生であっても組織を運営する立場に置かれる人が結構いるということのようです。部活動等の組織だけでなく、アルバイト先でより若い人たちを指導する若者がかなりいるようなのです。そういう学生たちからすれば、経営組織論は役に立つ、と見えるようなのです。自分自身の経験に引き寄せて考えることができるので、分かるし面白いと思われているようなのです。

分からないことを勉強するのは苦痛です。人間は弱い存在ですから易きに流れたくなるものです。でもそれだけでは勿体ない。若いうちは、分からないことを分かるようになる勉強もしてみませんか。



■経営管理総論 ■経営組織概論
■経営組織各論

藤本 哲
(ふじもと てつ)

兵庫県出身。神戸大学経営学部卒業、同大学院経営学研究科博士前期・後期課程修了。奈良産業大学講師・助教授、高崎経済大学経済学部助教授を経て、同准教授。双子の父。